鳥の詩

あの鳥はまだ うまく飛べないけど いつかは風を切って知る これない場所が まだ遠くにある なが願いだけ秘めて見つめてる

ことも 子供たちは 夏の線路歩く 吹く風に 素足を晒して とま 遠くには 幼かった日々を 両手には 飛び立つ希望を

あの空を回る 風車の羽根たちはいつまでも同じ 夢見る 届かない場所を ずっと見つめてる 願いを秘めた 鳥の夢を

派 かえ や せんる おお にゅうどうぐも かたち か 振り返る 灼けた線路 覆う 入道雲 形を変えても 僕らは 覚えていて どうか 季節が 残した昨日を…

き消える飛行機雲 追いかけて追いかけて はや 早すぎる合図 ふたり笑い出してる いつまでも す 真っ直ぐに 眼差しはあるように ませ 汗が滲んでも 手を離さないよ ずっと